福島県文化財調査報告書第24集

東北縦貫自動車道関連公共事業
地内発掘予備調査概報

1970

福島県教育委員会

ま　え　が　き

国土開発幹線自動車道建設法による東北縦貫自動車道は、南北１１５km、幅５０mにわたって本県を縦断する計画のもとに、去る１月その起工式が行なわれました。

この建設工事に併行して、各地に圃場整備事業が計画されておりますが、これらの地域の埋蔵文化財を適正に保存するため、遺跡の所在調査ならびに発掘調査計画に必要な資料を得る予備調査を実施してまいりました。

この調査報告は、その結果をまとめたものであります。この調査のため、ご多忙のところ調査を担当された調査員の方々はじめ、調査にご協力いただいた地元市町村教育委員会・調査協力員・土地所有者各位に対して深く感謝の意を表します。

昭和４５年３月

福島県教育委員会教育長
三本杉　國　雄

目　　次

東宮古墳群跡 …… 1
片面山遺跡 …… 1
金山古墳 …… 2
産土古墳群 …… 2
大壇古墳 …… 3
不動滝遺跡 …… 3
北畠遺跡 …… 4
久遠壇古墳 …… 4
間尺遺跡 …… 5
阿弥陀免古墳 …… 5
壇古墳 …… 6
供養壇遺跡 …… 6
堂林遺跡 …… 6
三本木遺跡 …… 8
雷電前遺跡 …… 8
浜田板碑 …… 9
亀ヶ城遺跡 …… 9
長者屋敷遺跡 …… 10
清水遺跡 …… 10
平山遺跡 …… 11

東宮古墳群跡

1　遺跡の種別　　古墳群跡、土師　須恵散布地

2　所　在　地　　安達郡本宮町青田字西万風

3　調査担当者　　小　滝　利　意

4　遺跡の概要

帳付神社の東方200 mの丘陵上とその南側傾斜地一帯より、土師、須恵の散布がみられる。丘陵上は全面的に開田化されてしまって、遺跡の状態は不明であるが、傾斜面の畑には、巾30 m、長さ200 mにわたって散布がみとめられている。故高橋丑太郎氏の調査によるとこの遺跡より、墨書銘のある土師が出土しているといわれている。

この地域の中心部に、巾0.3 m×5 mのトレンチ1本と、0.3 m×1 mのトレンチ9本を設定したが、遺物の包含は少なかった。

表土下0.25 mの黄褐色土層の下に0.05 m厚さの黄色粘土層があり、この層に黒色土が混入しており、土器片、木炭、木灰が検出されている。

なお古墳群が以前あったといわれているが墳丘、内部遺構は全くかわらず、その存在を確めることはできなかった。

試掘の結果、本調査の必要はない。

片　面　山　遺　跡

1　遺跡の種別　　土師　須恵散布地

2　所　在　地　　安達郡本宮町青田字片面山

3　調査担当者　　小　滝　利　意

4　遺跡の概要

帳付神社の西方500 mの丘陵の東斜面から、開田時人骨の入った長胴形土師器が数個出土している。この斜面の低部は、水田、上部は野菜畑、果樹園となっている。水田化した土地より蓋のある土師器、木炭を敷いた上に人骨をおき、土師器をかぶせたものが検出したといわれている。

果樹園に2 m×1 mのトレンチを設定したが、遺物包含層の存在はみられなかった。

なお土地所有地の遠藤芳房氏宅地内よりは、土師片・須恵器皿破片が採集されたが、斜面をけずり宅地にした際の混入かもしれない。

この遺跡は、開墾時破壊されたとみられ、本調査の必要はない。

金　山　古　墳

1　遺跡の種別　　古墳

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字大山字地蔵堂

3　調査担当者　　菅　原　文　也

4　遺跡の概要

安達太郎山の南東山ろくの東西に連鎖した台地上にあり、東北本線の西方、本宮町に隣接している。近くには産土古墳、馬乗地古墳等がある。

径 30 m、高さ5 mの円墳であるが、墳丘の南部と西部が耕作によりけずりとられている墳丘上に桜の木が多数あり、大神宮碑がある。周囲は野菜畑として利用されているが、埴輪片が採集できる。現在まで家型埴輪、朝顔型円筒埴輪（高さ 0.79 m）等が出土している。（福島県史考古資料図録 556 ～ 559 ）

金 山 古 墳

台地上にあるので圃場整備事業より除外されると思われるが、仮に含まれる場合でも強力に保存したい。周囲は畑地として利用されており、基部が耕作者により、けずりとられているので、早急に柵の設置を望みたい。

産　土　古　墳　群

1　遺跡の種別　　古墳

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字大山字地蔵堂

3　調査担当者　　渡　辺　一　雄

4　遺跡の概要

金山古墳との一連の古墳群で、ここには二基の円墳がある。一つは三渡神社を祀るかなり大きいもので、直径 30 mをこし、墳丘上に神社が建っている。もう一つは、円墳の墳丘をけずり、産土神社が安置されている。墳丘をかなりけずっているので、内部遺構も失なわれているのではないかと思われる。径 20 m弱で低い台地上をなし、周囲の畑より埴輪片の散布がみられる。

ともに神社が祀ってあるので、関連事業地域より除外されるものと思われる。

大　壇　古　墳

1　遺跡の種別　　古墳

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字玉の井字大壇

3　調査担当者　　菅　原　文　也

4　遺跡の概要

安達太郎山の南東山ろく、玉の井小学校西方の台地上にある。現在桑畑に利用されており、墳丘頂部の封土も流失はげしく、原形をとどめず墳丘の形態ははっきりしていないが、円墳と思われる。現在径 18 m、高さ1.5 m を計測することができる。故高橋丑太郎氏の調査によれば、土師器片、鉄製品が出土している。

不　動　滝　遺　跡

1　遺跡の種別　　土師散布地

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字玉の井字不動滝

3　調査担当者　　菅　原　文　也

4　遺跡の概要

堂林遺跡の北東約 100 m にあり、50m× 20 m の畑より土師の散布がみられる。散布は東に多いが周辺の地形からみると、開墾時に遺跡の西方高台が削平され、その時に堆積されたものと思われる。従って遺跡は西方高台に存在すると考えられるが、宅地になっており確認はむずかしい。

予備調査では、西方の高台に東西 1 m × 5 m のトレンチを設定し調査する。西で 0.6 m、東で 0.85 m で地山に達し、遺物包含層は確認できなかった。表土下 0.2 m の厚さに黒色土層があり、その下 0.4 ～ 0.65 m に木炭片の含んでいる褐色土層があって、その下に地山である混礫砂土層があった。

本調査では遺跡の西方高台の傾斜に直交してトレンチを設定する。中心部は 20 m × 10 m の地域と思われる。遺跡の東方は開墾時に盛土したところであまり期待できないが、数個所にピットを入れてみる。

北　畠　遺　跡

1　遺跡の種別　　縄文散布地

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字大山字北畠

3　調査担当者　　小　滝　利　意

4　遺跡の概要

杉田川の西南方に発達した微高地上とその北東部の水田地帯が散布地である。

特に象田目と草津川部落の中間の水田地帯に以前から多くの縄文土器の出土がみられ、現在も僅かではあるが畔などより縄文片が検出されているが時期を明確にすることの出来る資料はみられない。

この地域は開田時ブルドーザーにより整地されているので、包含量の存在を確認することは出来なかった。

この遺跡の北方、草津川部落南側の開田時に、故高橋丑太郎氏が子持曲玉を発見している。また炉跡も発見しているといわれている。現在では全地域が開田化されており、予備調査の結果では本調査の必要が認められない。

久　遠　壇　古　墳

1　遺跡の種別　　古墳

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字大山字仲島

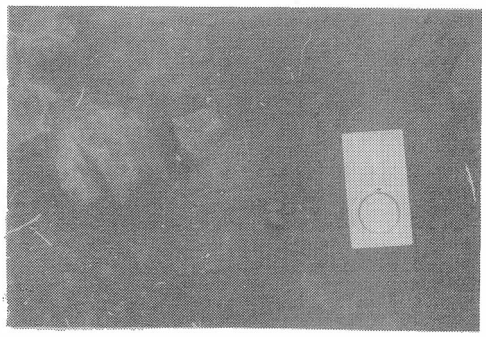
3　調査担当者　　小　滝　利　意

4　遺跡の概要

大山小学校の西方 300 m、周囲よりやや高くなっている地域を久遠壇又は供養壇とよんでいる。

この微高地は 150 m × 100 m あり、土師・須恵の散布がみられ、この中心部は高さ 1.5 m、径13 m の円形墳丘をなし、この墳丘上に五輪塔の一部と文化、天保、弘化年間の墓碑が数基ある。

墳丘の東方の畑に、3m × 1 m のトレンチを南北に設定する。表土下 0.7 m までは、埴輪の破片がまばらに検出されるが、深さ 0.7 ～ 0.8 m にある黒色土層には円筒、形象埴輪片が多数発見された。



久遠壇古墳（円筒埴輪出土状況）

以前この近くにある公民館周囲より円筒埴輪の完形品が出土しているが、人物埴輪の発見がなかった。今回の調査では、人物埴輪の腕の部分が出土している。

本調査は、中心部 50 m × 50 m の地域の測量と墳丘部、散布地に 2 m × 20 m のトレンチ数本設定し、墳丘内部の調査、墳丘周辺の埴輪の配列調査を中心にしたい。

また土師・須恵包含状態を確認するためトレンチ十数本設定したいのでベルトコンベヤー、一輪車などが必要である。

特に散布地には、古墳跡があるのか、住居跡か予備調査では確認できなかったので充分なる人夫と調査日程が必要である。近くに大玉村支所があるので、宿舎、遺物の保管場所などにも利用できる。

間　尺　遺　跡

1　遺跡の種別　　土師散布地

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字大山字間尺

3　調査担当者　　永　山　倉　造

4　遺跡の概要

破橋部落から平坦な台地が東にはり出した地域にこの遺跡があり、周囲を水田にかこまれた微高地約 50 a にわたる畑一帯より、土師の散布がみられる。本調査は中心部 100 m × 50 m = 5,000 m² に 2 m × 20 m のトレンチを東西に 10 ～ 15 本設定し、集落の発見につとめる。

近くにある大山支所を宿舎とし用具はベルコンと普通の用具で調査できる。

阿 彌 陀 免 古 墳

1　遺跡の種別　　古墳

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字玉の井字境

3　調査担当者　　永　山　倉　造

4　遺跡の概要

大玉村役場東方、道路に接し南側にある径約 20 m の円墳である。この古墳の東北隅に阿弥陀堂が建っている。このお堂造営時マウンドの一部がけずられている。

墳丘の中心部周辺から土師片の散布がみられるが、阿弥陀堂があるので工事区域より除外されるものと思われる。

壇　　古　　墳

1　遺跡の種別　　古墳

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字大山字壇

3　調査担当者　　永　山　倉　造

4　遺跡の概要

本宮町に近く、東北本線の東側にある。一見自然の小丘であるが、北側に花崗岩の石室とみられる形のものがあり、また花崗岩の露頭も多数みられる。自然の丘陵をそのまま利用した古墳とみられる。

故高橋丑太郎氏は、周囲の畑から円筒埴輪を採集している。

工事の進みと併行して実測図の作成、埴輪の検出、内部遺構の調査をしたい。

供　養　壇　遺　跡

1　遺跡の種別　　縄文散布地

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字大山字供養坦

3　調査担当者　　永　山　倉　造

4　遺跡の概要

この地域を通る東北縦貫自動車道敷地のセンターの東ゆるやかな台地の東端、杉田川に面した水田地帯にこの遺跡がある。

開田時に、多くの縄文土器が出土しており、現在でも畔その他より、羽状縄文片が検出されている。散布は約 10 a におよぶが中心部 10 m × 30 m を全面発掘し、住居跡の発見につとめたい。

堂　林　遺　跡

1　遺跡の種別　　土師・須恵散布地

2　所　在　地　　安達郡大玉村大字玉の井字堂林

3　調査担当者　　渡　辺　一　雄

4　遺跡の概要

字堂林 72 伊藤安雄氏宅より、安達太郎川の河岸段丘までの間の畑に土師、須恵の散布がみられる。散布地は約 40 a におよんでいる。中心部とみられる 20 m × 30 m の地域に、2 m × 30 m の

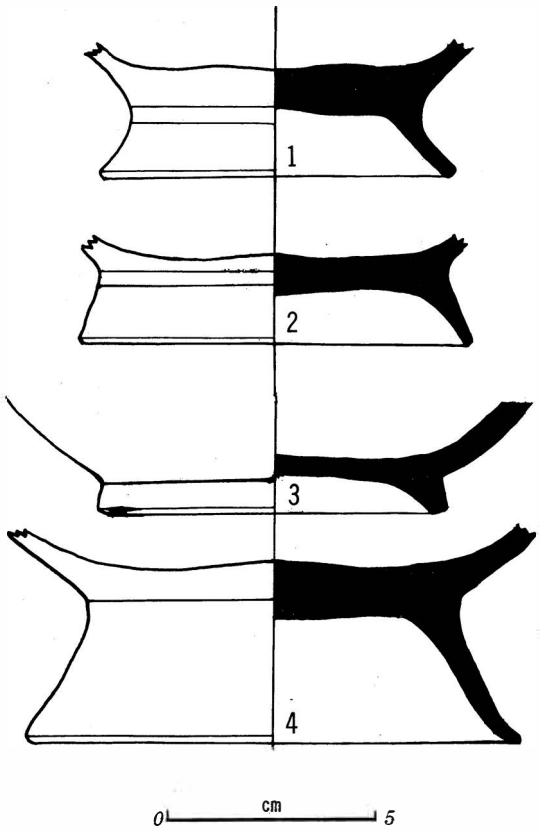
トレンチを数本設定し、住居跡の発見につとめ、そこを拡張したい。

堂林遺跡の予備調査の際に発見された土師器、須恵器のうち、ここには、高台付坏形土器の土師器の破片から図上復原して、図示した。いずれも坏部が欠損している。

1は、内黒で褐色を呈し、脚部裏側にロクロ整形痕が明瞭に認められる。底は無文のようであるが、中央部は坏部底の上・下ともやや凹んで薄くなっているようである。高台の端の接地する部分は、ななめに面取りのような整形の痕が認められる。

2は、内黒で褐色を呈し、脚部から底部全体にロクロ整形痕が認められる。中央部が1と反対に上下にやや厚みを増している。脚縁部も1と同様にななめに整形した為にできた角がついている。

3は、やや薄手である。復原の余裕がなかった為、全体の復原実測図を掲げられなかったが、坏部口縁は極めてうすく、外反しまくれているようである。内黒で、坏部外面や底部にはロクロ痕がある。焼きは他より固い方で、黄褐色である。高台はあまり高くない。



堂林遺跡の高台付坏形土器

4は、一番高台の部分が高い。内黒で、坏底部中央はやや凸になっている。脚部外面には、横に整形の細かい筋がわずかに走る。坏部と高台の部分をつなぎ合わせた跡が底面にわずかに残ってみえる。

ここに図示した4ケのほかには、うすい土師器の坏が多い。底部はいずれも糸切底で、平底であり内黒である。　甕形土器の小破片があるが、口縁部は強く外側へ突出し、胴部は横に条痕が残る。

須恵器は、長頸須恵器壺の破片が数点あるが、復原すれば全体の形はわかる。ただし口縁部は欠けている。頸部と胴部は別々につくり、つなぎ合わせたことが裏側からわかる。あまり胴部は張っておらず、はがれてはいるが高台付きのようである。

以上のような土師器・須恵器群をみると、高台付や糸切痕の存在などから、時期は奈良時代までさかのぼることができず、平安時代初期のものと考えるのが妥当であろう。

三　本　木　遺　跡

1　遺跡の種別　　縄文散布地

2　所　在　地　　二本松市塩沢字三本木

3　調査担当者　　小　滝　利　意

4　遺跡の概要

塩沢小学校の西方にある田地岡遺跡のある丘陵の南方低地で、伊佐沼と宇通坂より来る道路に狭まれた一帯の地域で東南方に向ってゆるやかに傾斜し、水田化された土地までの畑一面に縄文の散布がみられる。

中心と見られるところを1m×2m、1m×1mの大きさのトレンチ、ピットを8ヶ所試掘したがいずれも0.5～0.7mぐらいまで、長芋栽培のため深耕されており、表土下0.8mで地山に達しているが、遺物の包含は全然認められなかった。

この辺一帯の表面採集では縄文式土器前期前半のものが検出されている。なお近くの斎藤氏宅には表面採集した石匕2個と石鏃多数が保存されている。

試掘の結果からは、この遺跡は耕作のため破壊されており、出土遺物もないので発掘調査の必要を認めない。

またこの散布地の南方の台地上には、多くの縄文の散布がみられ、以前多くの縄文の完形品を出土している。

雷　電　前　遺　跡

1　遺跡の種別　　土師・須恵散布地

2　所　在　地　　福島市信夫町大字平石字雷電前

3　調査担当者　　田　中　正　能

4　遺跡の概要

長者屋敷遺跡の南約1Km、南西に傾斜している丘陵にあるの牧草地、桑畑、麦畑一帯より、土師・・須恵の散布がみられる。

この丘陵の畑を南北に5ヶ所、5m間隔に0.6m×0.6m、深さ1mのピットを設定したが、いずれのピットよりも遺物、遺構が検出されなかった。最北のピットより、東へL字型に試掘抗を延長したところ、表土下0.15mで焼土塊とそれをとりまく、薄い灰土層が検出、灰土層に内黒土師器片が混入されており、炉跡の一部が検出された。

本調査は、中心部50m×50mの地域に2m×10mのトレンチ2～3本程度設定し住居跡の確認をしたい。

浜　田　板　碑

1　遺跡の種別　　板碑

2　所　在　地　　福島市佐倉大字下名倉字浜田

3　調査担当者　　田　中　正　能

4　遺跡の概要

佐倉下旧田沼陣屋跡は桑畑となっているが、その東南端に田沼氏勧請の伏見稲荷が小さなお堂内に安置されている。このお堂の北側に二基の板碑がある。

一基は、キリーク（阿弥陀如来）で他の一基は阿弥陀種子三尊板碑である。

種子三尊板碑には「正安元年己亥十二月十七日」の紀年銘がみられる。この板碑については「福島県史」「福島市史」にも記録されてあり、使用石材は俗にいう「御山石」で石質が硬いためか、薬研彫りは浅いが鋭い、

種子にも規格されない柔軟性があり、よく時代の特徴がみられる。

無紀年銘の阿弥陀三尊種子板碑も、筆法が正安板碑とよく似ており同年代のものであろう。阿弥陀如来、勢至菩薩、観世音菩薩の来迎仏と浄土信仰をよくあらわし、使用石材は安山岩で福島市内の板碑でも初期に属するものである。

亀　ケ　城　遺　跡

1　遺跡の種別　　館跡・土師・須恵散布地

2　所　在　地　　福島市吾妻町大字前島字亀ケ城

3　調査担当者　　田　中　正　能

4　遺跡の概要

信夫小次郎居館の伝説のある亀ケ城遺跡は古代の須川と荒川との合流点、この二川の氾濫原にある標高100 mの小高い丘陵にある。現在果樹園、野菜畑、宅地になっている。

果樹園造成、家屋新築の際の土師・須恵の完形品、焼米など出土している。

館跡は、不規則な形であるが、約2 haにもおよび、外周には8～10 mの周濠痕跡が確認される中世の平館跡である。

北西隅に2 m×3 mのトレンチを設定する。表土0.2 mの下に0.05～0.1 mの焼土、灰土層があり、それ以下は褐色粘土層となっている。この層より土師・須恵数片が検出されている。

このトレンチの南に1 m×3 mのトレンチを設定したが、表土下0.6 mで土師・須恵片の検出が

あった。

本調査は、測量を中心として記録保存を重点にし工事と併行して発掘調査をする。

発掘工程は測量、現状撮影、樹木伐採、抜根、柱穴および柵列の発見につとめる。

長者屋敷遺跡

1　遺跡の種別　　土師・須恵散布地

2　所　在　地　　福島市信夫町大字平石字長者屋敷

3　調査担当者　　田　中　正　能

4　遺跡の概要

福島盆地の南西隅、吾妻山系の山ろくの突端部、平地に接する小さな丘陵上の西側にある。この遺跡は約 1,000 ㎡にわたって、土師・須恵の散布がみられる。

現在桑畑、野菜畑などになっているが、中心部とみられる桑畑 0.1 ha を南北に 5 ヶ所 0.5 m × 0.5 m、深さ 1 m のピットを設定したが遺物、遺構はみられなかった。

今後工事進行中遺構の発見があれば、本調査をすることにしたい。

清　水　遺　跡

1　遺跡の種別　　縄文散布地

2　所　在　地　　福島市松川町大字関谷字清水

3　調査担当者　　田　中　正　能

4　遺跡の概要

俗称、イソクボとよばれ、吾妻、水原山系ののびた小さな丘状台地上の水田地帯の西方にある遺跡で 1 ha にわたり縄文が散布している。 地下の粘土層中より、石英、石灰岩の異形の小型石塊が出土しているが、旧石器に類似した石器も検出されている。破砕面、打砕面の痕跡ある石器はないが注目すべき遺跡であろう。圃場整備工事や東北縦貫自動車道の土取場ともなれば調査も必要であろう。

平　山　遺　跡

1　遺跡の種別　　縄文散布地

2　所　在　地　　福島市松川町関谷字平山

3　調査担当者　　田　中　正　能

4　遺跡の概要

水原山系の突端部にある平山部落の東南にある遺跡で、現在麦畑、野菜畑となっている。約1 ha にわたる畑より、縄文中期以降の土器片、石匕、石槍、石鏃、石斧などが検出されている。

以前の開墾時には、炉跡にあったとみられる焼石もあり、住居跡の存在も確認されている。

本調査は1 m × 10 m のトレンチ3～4本設定し、住居跡が発見されれば、その場所を拡大したい。

畑なので、普通の用具とベルコンがあれば調査できる。

東北縦貫自動車道関連公共事業地内遺跡一覧

1. 西白河郡西郷村

遺跡番号	名称	所在地	種別	地目	遺跡の概要
西 1	下西平遺跡	小田倉字下西平	散布地	田	鈴木貞三氏宅（大字小田倉字下西平）西方 80 m の水田：石器、縄文出土

2. 郡山市

郡 1	上牛庭遺跡	安積町字上牛庭	散布地	畑	鈴木英夫氏宅（大字上牛庭）前の畑：縄文、土師出土

3. 安達郡本宮町

1953	宮下遺跡	仁井田字宮下	散布地	畑	宮下部落西方の台地：石器、土師須恵出土
1952	寺下遺跡	仁井田字寺下 25	〃	〃	寺下部落より五百川岸の間：石器縄文出土
1960	五百川遺跡	荒井字新介	〃	〃	国鉄五百川駅付近：土師出土
1941	片面山遺跡	青田字片面山	〃	田畑	帳付神社西北：開田時土師出土
1939	東宮古墳群	〃 西万風	〃	〃	帳付神社東方 200 m ：墨書銘土師器出土、墳丘確認できず、墳跡
1937	孫市遺跡	〃 大師堂 66	〃	宅地	孫市町営住宅南：土師須恵器住宅建設時出土

4 安達郡大玉村

1980	供養壇遺跡	大山字供養壇	散布地	田	字高久佐々木平一氏宅東方の水田：縄文晩期の土器出土
1979	北畠遺跡	〃 北畠	〃	〃	供養壇遺跡の南 200 m：縄文前期の土器出土

遺跡番号	名　　称	所　在　地	種　別	地目	遺　跡　の　概　要
1978	天　岩　遺　跡	大山字天岩	散布地	田	北畠遺跡南方 400 m の水田、土師後期の出土
1977	藤ノ木遺跡	〃　椚山	〃	〃	大山小学校北の水田：土師出土
1985	仲ノ内前遺跡	〃大志茂	〃	〃	大山小学校北東約 300 m 仲ノ内部落東方の水田：弥生、土師、石製模造品出土
1972	谷　地　古　墳	〃　谷地	古墳群	田畑宅地	大山小学校敷地：マウンドはないが主体部は地表下らしい、埴輪出土
1988	破　橋　遺　跡	〃　破橋	散布地	田畑	破橋部落の東 200 m の水田と畑との中間：弥生、土師、住居跡、紡錘車出土
1984	久遠壇古墳群	〃　仲島	古墳群	畑	大山小学校北西約 150 m の畑：土師埴輪片出土
1997	玉　貫　遺　跡	〃　玉貫	散布地	〃	菊地吉右衛門氏宅（字玉貫、東北本線西側）の東の畑：弥生土師、須恵出土
大　1	仲　島　遺　跡	〃　柿崎	〃	田	柿崎部落南方 200 m の水田：開田時弥生住居跡、土器、石器出土
大　2	諸　田　遺　跡	〃	〃	畑宅地	旧国道大山農協倉庫西 300 m にある諸田部落産土神、三渡神社付近：土師須恵出土
大　3	壇　　古　　墳	大山字壇	古　墳	山林畑	東北本線の東側、大玉と本宮町の境の小丘：石室露出、埴輪出土
1991	金　山　古　墳	〃　地蔵堂	〃	山林畑	東北本線西方本宮との境：弥生、埴輪出土、（家形埴輪）、近くに馬乗地古墳がある
1992	産土古墳群	〃	〃	山林宅地	金山古墳西方 100 m の台地上、埴輪出土
1996	傾　城　古　墳	〃　愛宕 10	〃	山林	大玉村東端旧国道と阿武隈川の間：全長 42 m、高さ 5 m の前方後円墳、陪墳あり
大　4	山　崎　遺　跡	〃　山崎	〃	畑	大河内伝次郎氏宅周辺の畑：大きい縄文土器片出土する。焼石、焼土も併出している

遺跡番号	名　　称	所　在　地	種　別	地目	遺　跡　の　概　要
大　5	上の台遺跡	大山字中林	散布地	畑	くぬぎ山丘陵東端上の台墓地の周辺の畑：縄文、土師出土
2008	六社山古墳群	〃　六社山	古　墳	〃	大山中学校南、岳温泉への県道南（忠霊塔）付近に円墳2基ある。径10 m高さ1 m
2005	花林古墳群	〃　花林3	〃	〃	大山小学校北西台地に2基の円墳径 10 m高さ1 m、周辺より土師須恵片散布している。
大　6	館　遺　跡	玉の井字館168	散布地	〃	玉の井城跡といわれており一部に濠跡が残つている。周辺より土師縄文片散布している
大　7	柳内遺跡	〃　東町15の1	〃	〃	竹田鳥蔵氏宅南の畑一帯に土師、須恵片が散布する。
大　8	堂林遺跡	〃　堂林72	〃	〃	大玉村の東南、本宮町との境近くにあり安達太郎川の両岸段丘の畑縄文、土師、須恵散布
大　9	不動滝遺跡	〃　不動滝	〃	〃	堂林遺跡の北方100 mの畑（渡辺和夫氏宅南）縄文、土師散布
大 10	三島遺跡	大山字新三島	〃	田	現在水田になつており土師片の散布少ない
大 11	行屋遺跡A	〃　行屋7	〃	畑	大玉村役場北500 mの畑：土師出土
大 12	行屋遺跡B	〃	〃	〃	大山中学校南の丘陵の畑：土師散布
大 13	前二子塚遺跡	〃　小次郎内51	〃	〃	二子塚古墳の東にあり土師片散布
2012	住吉遺跡	〃　住吉7	〃	〃 宅地	緩傾斜の台地で畑になっている：土師散布
大 14	長瀞遺跡	〃　長瀞	〃	田	開田時、多くの住居跡と土師器が出土しているが、現在散布はみられない。
2022	大壇古墳群	〃　大壇163	古　墳	畑	玉の井小学校裏山の丘上2基の円墳現存、近くの1基より土師器、鉄片出土している

遺跡番号	名　　称	所　在　地	種　別	地目	遺　跡　の　概　要
大 15	阿弥陀免古墳	玉の井字境	古　墳	畑	径 20 m の円墳があり、土師器片散布している

5 福　島　市

2093	清　水　遺　跡	松川町関谷字清水	散布地	畑	開田時土師出土
2095	赤貝森遺跡	〃　小池字赤貝森	〃	〃	縄文、須恵出土
福　1	信夫隠遺跡	〃　平石字信夫隠	〃	〃	福島交通柿場バス停留所東方：焼石、焼土出土
2109	雷電前遺跡	〃　字雷電前	散布地	〃	雷電前 10 付近の畑、土師、須恵出土
福　2	長者屋敷遺跡	〃　字長者屋敷	〃	〃	雷電前の墓地と平石神社の間、土師出土
福　3	浜　田　板　碑	吾妻町字浜田	板　碑	〃	稲荷神社境内にある。正安元年己亥（ 1299 ）の年号あり
福　4	亀ヶ城遺跡	〃　前島字亀ヶ城	館　跡	〃	国道 115 号線浜田部落北 500 m 土師、須恵出土、館跡と思われる。

◎新発見の遺跡の遺跡番号には、仮番号を付してあります。

あ　と　が　き

東北縦貫自動車道の建設工事計画に併行して、西白河郡西郷村、安達郡大玉村はじめ自動車道沿線各地の市町村で、圃場整備計画がすすめられ、その一部は本年度より工事が行なわれています。

この中で昭和 45 年度中に工事が実施される地域の遺跡所在調査・予備調査を行ないました。

これらの地域の遺跡総数は 46 を数え、このうち予備調査を実施した遺跡は 20 か所であります。この調査に動員された延人員は県関係・調査員・調査協力員・地元地教委関係・人夫合わせて 144 人調査延日数は 43 日を費やし、調査に 400,000 円を要しております。予備調査は、坪堀り程度の部分調査を主に行ないましたが、ところによつては地主の承諾がなく、充分な資料が得られないところもありました。

東北縦貫自動車道関連公共事業地内
埋蔵文化財調査員名簿

氏　　名	住　　所	所　　属	備　　考
田　中　正　能	郡山市赤木町 247	国鉄郡山機関区	福島県文化財専門委員
小　滝　利　意	会津若松市門田町黒岩丙 63	会津若松市役所観光企業課	日本考古学協会員
渡　辺　一　雄	いわき市平泉崎字辻道 20	いわき市立草野中学校	〃
永　山　倉　造	須賀川市北町 72	須賀川市教育委員会	発掘技術者研修会修了
菅　原　文　也	いわき市平鍛冶町 22	いわき市立第一小学校	〃